



キリングループ°

2021年度12月期 第1四半期決算

2021年5月12日
キリンホールディングス株式会社

1Q業績サマリー

- 連結売上収益は対前年 -3.6%の減収、連結事業利益は 1.1%の増益と、新型コロナの影響を受ける中、好調なスタートとなった。
- 税引前四半期利益は、新型コロナ影響を受け持分法投資利益の減少があった一方、その他営業費用の減少などにより3.1%の増益となった。
- 親会社の所有者四半期利益は、前年度の繰延税金資産積み増しの反動による法人所得税増加により-16.3%の減益となったが、予算を超過。
- また、ミャンマーのカントリーリスクの高まりにより、ミャンマー・ブルフリー事業に大きな影響が生じているが、現時点では精緻な見通しを立てることが困難であることから、同事業の年初目標を継続する。

▶ 新型コロナの影響を受けるも、収益構造の改革が進展し、事業利益は前年比増益

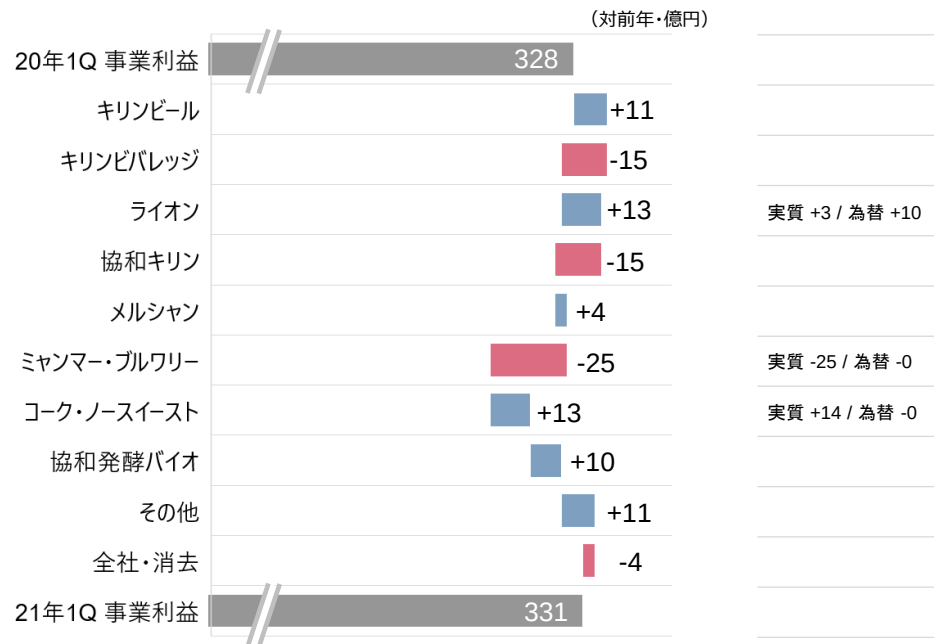
(億円)	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	4,093	4,245	-152	-3.6%
事業利益 ※1	331	328	4	1.1%
税引前四半期利益	336	325	10	3.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	170	203	-33	-16.3%
定量目標	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
平準化EPS ※2	27円	29円	-2円	-6.9%

※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※2 明細はp.13参照。

2021年度 1Q実績：連結事業利益 事業会社別増減

▶ 新型コロナ等によるマイナス影響をグループ全体のポートフォリオで補完



補足

キリンビール

▶ 発泡酒・RTDの販売好調等により限界利益が増加。

麒麟ビバレッジ

▶ 販売数量の減少に加えて、チャネル構成比の変化により「商品・容器構成差異等」が悪化。

ライオン

▶ 昨年3月の特需の反動や、飲食店の収容人数制限などによる影響を海外クラフトなどで補完。

協和麒麟

▶ グローバルビジネス基盤の早期確立に向け、販売費及び一般管理費が増加。

ミャンマー・ブルワリー

▶ 新型コロナ、政情激変の影響等により販売数量が大きく減少。

コーク・ノースイースト

▶ コストコントロール効果等。

協和発酵バイオ

▶ 製造数量増加により固定費の負担が減少。

全社費用・セグメント間消去

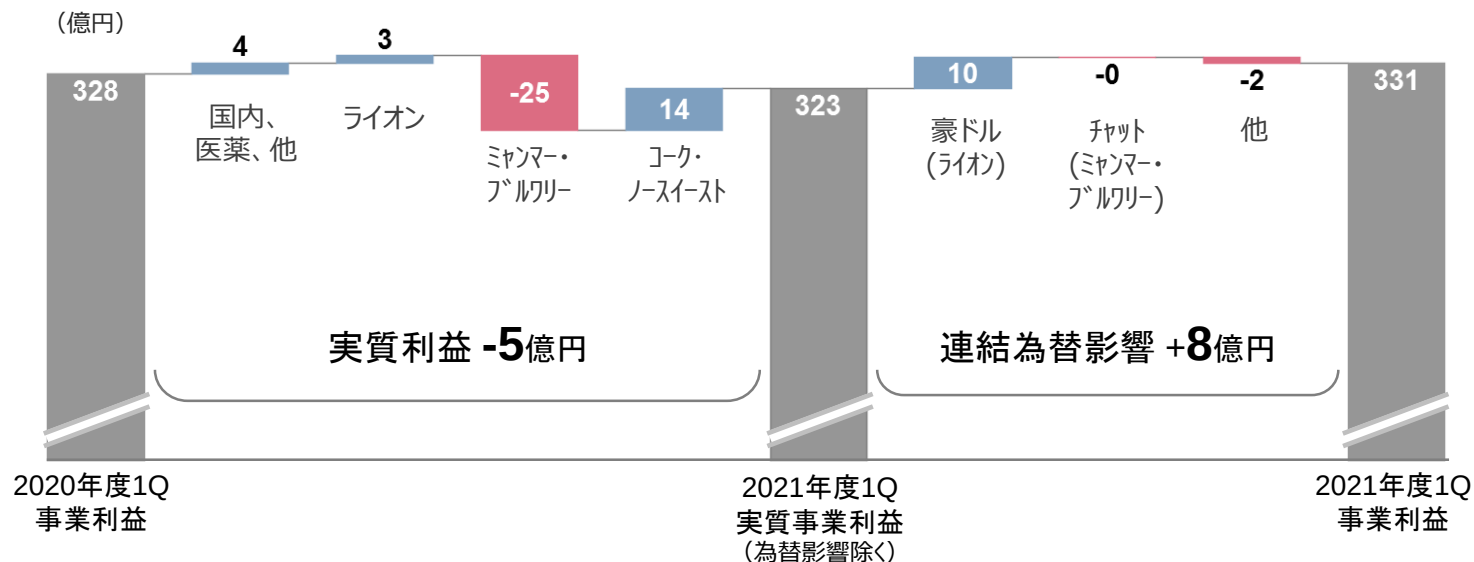
▶ セグメント間消去が増加。

※「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。

※ライオンの飲料事業売却に伴い、「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 1Q実績：連結為替影響

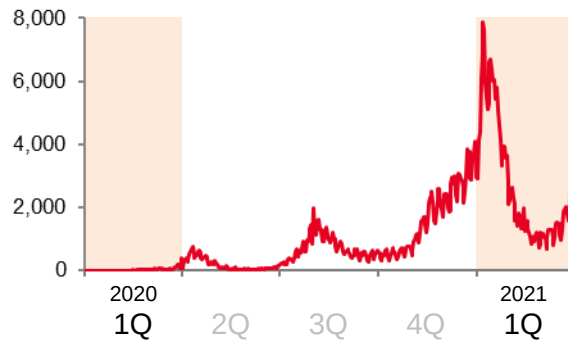
➤ 円安・豪ドル高を受け、連結為替影響は+8億円。



新規感染者数の増加や、感染拡大防止策の強化により業務用チャネルへの影響が継続

日本

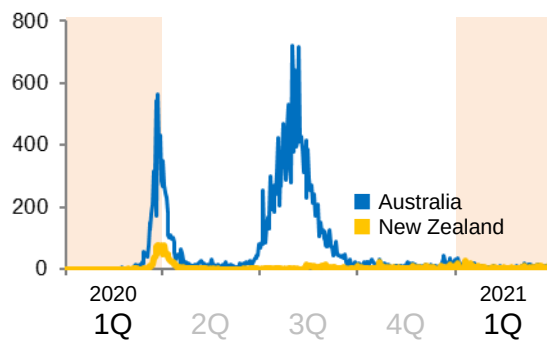
2020年1-3月 : 1,953人 (1日平均21人)
2021年1-3月 : 241,808人 (1日平均2,687人)



- ▶ 前年同期に対し新規感染者数計は大幅に増加。
- ▶ 業務用チャネルおよび、自動販売機やオフィス周りのコンビニ、などの販売減少が続く一方、家庭用が堅調。

豪州・NZ

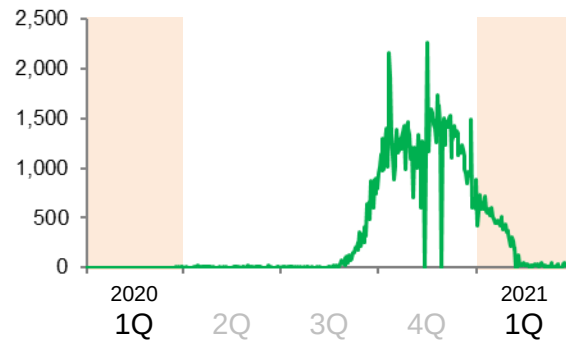
2020年1-3月 : 4,959人 (1日平均54人)
2021年1-3月 : 1,249人 (1日平均14人)



- ▶ 1日当たりの新規感染者数は平均14人と前年同期から約1/4に減少。
- ▶ 感染拡大防止策により業務用は前年同期に対し影響が大きい、足元では回復傾向にあり。

ミャンマー

2020年1-3月 : 0人 (1日平均0人)
2021年1-3月 : 18,672人 (1日平均207人)



- ▶ 新規感染者数はピークを脱したが、2月のクーデター以降は検査体制が不十分なため実態は不明。
- ▶ クーデター影響と合わせ、経済活動に混乱が生じている状況。

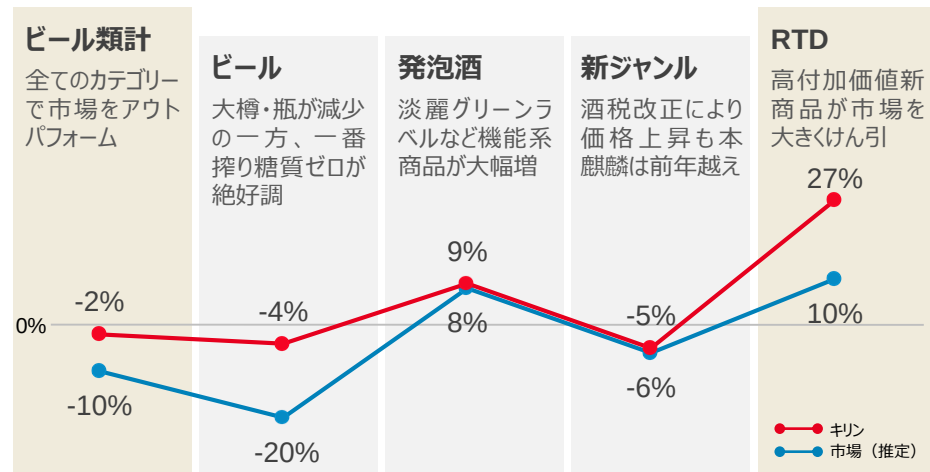
主要事業の概況：キリンビール

キリンビール

増収増益。全てのカテゴリーで市場をアウトパフォーム。高付加価値商品も絶好調

新型コロナによる影響が続く中、ブレない戦略と圧倒的な強さで市場をけん引

カテゴリー別販売状況（1-3月累計 対前年販売数量）



一番搾り 糖質ゼロ



- 1～3月の販売数量は計画の約3割増と好調
- 「一番搾り」ブランドと「おいしさ」で需要顕在化

高付加価値RTD

- 高付加価値RTD構成比が拡大
-
- 8%
- 1QのRTD販売数量に占める割合

クラフト 豊潤496



- 販売好調。販売初月は、計画以上の販売を達成

3月23日発売

Home Tap



- 会員数は年間目標に向けて順調に増加

主要事業の概況：キリンビバレッジ / ライオン

キリンビバレッジ

▶ 新型コロナ等により数量減。プラズマは好調

- 1月の緊急事態宣言を受け、販売数量が減少。限界利益の減少を販売費等の抑制で一部下支え。
- 自動販売機ビジネスの構造改革は、1Q時点で約9億円の収益改善が進み、計画通り進捗。



健康戦略の進捗

間口・認知度の向上

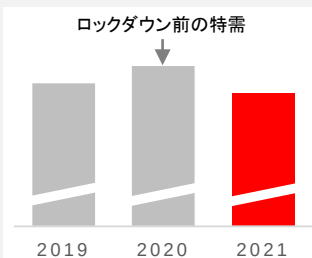
- ▶ プラズマ乳酸菌飲料の販売数量は前年比128%と好調を維持。

ライオン

▶ 通期計画に対し順調に進捗

- ライオン飲料事業売却に伴い売上収益は減少。
- 酒類事業は売上収益は1Q予算通り、事業利益はチャネルミックス改善や好調な北米クラフト等により計画超過。
- 昨年同期よりも厳しい飲食店営業規制のなか豪州・NZが下げ止まり、北米クラフトの好調も継続。

豪州・NZ 1Q販売数量トレンド



- ▶ 3月累月の対前年販売数量は、業務用 -7%、家庭用 -6%、合計 -6%。
- ▶ 業務用は1月～2月の二桁%減に対し、3月は減少幅が改善。家庭用の減少は前年の特需反動。
- ▶ 2Q以降ミックス改善が加速する見込み。

主要事業の概況：協和キリン / ミャンマー・ブルフリー

協和キリン

▶ グローバル戦略品が堅調に推移

- ・ 欧米でのグローバル戦略品展開に伴い販売費、一般管理費が増加。グローバル戦略品は順調に拡大。



対前年売上収益増減率

+36%

北米順調・EMEA新規上市
国順調・ドイツ順調・中国承認



+8%

EMEA上市国順調 各国承認申請・承認取得順調



+168%

USにおける営業活動回復へ

ミャンマー・ブルフリー

▶ 新型コロナに加え2月以降クーデターが影響

- ・ 新型コロナによる業務用チャネルへの影響に加え、クーデターによりあらゆる経済活動の混乱が継続。
- ・ 混乱による総需要の低下に加え、供給能力の低下、営業活動の制限などにより、市場全体の販売数量は対前年4割減となった。
- ・ ミャンマー・ブルフリーの販売数量も市場と同程度減少。引き続き従業員の安全と健康の確保を最優先とし、状況を注視。

JV解消

- ▶ MEHPCL社とのJV解消に向けて協議中。
- ▶ ミャンマー・ブルフリー社からの配当は停止を継続。

ヘルスサイエンス領域

▶ プラズマ乳酸菌商品群の販売が好調

- 飲料・ヨーグルト、サプリメント、菌体全てで対前年増。更なる認知向上を目指す。



飲料
128%



サプリメント
204%

飲料は販売数量、サプリメントは販売金額ベースでの対前年増減率

プラズマ乳酸菌iMUSEを用いた医療支援

「#iMUSEで医療支援」というTwitterのハッシュタグで集まった投稿数に応じて国内医療機関に「プラズマ乳酸菌iMUSEサプリメント」を寄付する医療支援プロジェクト。

5月6日～8月31日を対象期間として日本国内で実施中。

協和発酵バイオ

- 生產品目の絞り込みを進めつつ製造量は順調に回復。
- 昨年抑制していた通販サブリの販促を順次再開。
- タイのHMO※1 製造設備新設も計画通り進捗。

ファンケルシナジー

- 4月よりキリン ⇄ ファンケルの出向者を増員。これまでの3名⇒8名へ※2。
- マーケティングやデータ分析に関するノウハウの共有などを展開。

※1 ヒトミルクオリゴ糖 ※2 役員除く

FANCL
6名 ↑ ↓ 2名
KIRIN

ESGファイナンス・アワード・ジャパンの環境サステナブル企業部門で2年連続「金賞」を受賞

Environment

ESGファイナンス・アワード2年連続金賞

環境省「ESGファイナンス・アワード」において、環境サステナブル企業部門で2年連続「金賞」を受賞。



受賞理由抜粋：

- 「社会にポジティブインパクトを与えたいというトップマネジメントの強い意志の下、従来から取り組んできた環境対応を着実に前進させており、先進的な取り組みが行われている。」
- 「これらの取り組みが日々の企業活動の中にしっかり浸透しており（中略）目標設定から今後の対応に至るまでのPDCAサイクルが着実に機能していることが、投資家に十分伝わる内容となっている。」

SBTNコーポレートエンゲージメントプログラム参画

Science Based Targets Networkが主催するコーポレートエンゲージメントプログラムに国内医薬品・食品業界として初めて参画。

Social

なでしこ銘柄、5年連続ホワイト500

女性活躍推進が優れた企業として、「なでしこ銘柄」に選定。



経済産業省と日本健康会議により、5年連続で「健康経営優良法人2021（ホワイト500）」として認定。



副業人材公募

多様性強化に向け、キリングroupとして初めて新規事業にかかわる副業人材の公募を実施。キリンビールの事業創造部としてIoT・マーケティング人材を募集。

キリンシティでの飲み放題プラン終了

「多量飲酒の防止」、「スロードリンク®の推進」などを目的に、3月17日以降、直営レストランであるキリンシティ全店での酒類飲み放題を終了。

Governance

信託型報酬における非財務評価の占める割合を10%から20%に増加

株主・投資家とのエンゲージメントを踏まえ、業績評価全体に占める非財務指標の構成要素を10%から20%に高めることを決定。2021年度評価より反映。

	ROIC	平準化EPS	非財務
2020年	45%	45%	10%
2021年	40%	40%	20%

2021年度より、代表取締役社長の賞与への個人業績評価導入

会社業績目標の達成に向けた戦略・方針の意思決定など、経営の最高責任者としてのパフォーマンス発揮度を賞与に反映させるため、2021年度より代表取締役社長の評価にも個人業績評価を導入。

※会社・個人の割合は70:30。

資料編

Joy brings us together

2021年度 1Q実績：平準化EPS 明細

(億円)		21年1Q実績	20年1Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	170	203
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	55	41
平準化 四半期利益	③＝①＋②	224	244
期中平均株式数（千株）	④	833,613	856,598
平準化EPS（円）	③÷④	27	29

2021年度 1Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)		21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
連結 売上収益		4,093	4,245	-152	-3.6%
国内ビール・スピリッツ		1,407	1,340	66	5.0%
	麒麟ビール	1,362	1,304	58	4.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	45	36	8	22.0%
国内飲料		510	595	-85	-14.3%
	麒麟ビバレッジ	515	600	-85	-14.2%
	セグメント間取引消去	-5	-5	-0	—
オセアニア酒類		597	689	-92	-13.4%
	ライオン	597	689	-92	-13.4%
	セグメント間取引消去	-0	-0	0	—
医薬		810	772	38	4.9%
	協和麒麟	811	773	38	4.9%
	セグメント間取引消去	-2	-1	-0	—
その他		770	849	-79	-9.3%
	メルシャン	136	139	-3	-2.1%
	ミャンマー・ブルフリー	57	107	-50	-46.7%
	コーク・ノースイースト	317	317	-0	-0.1%
	協和発酵バイオ	110	150	-40	-26.4%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	150	136	14	10.0%

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 1Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)		21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
連結 事業利益		331	328	4	1.1%
国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール	124	112	12	10.7%
	その他	119	107	11	10.5%
国内飲料	麒麟ビバレッジ	5	4	1	15.3%
		23	38	-15	-40.5%
オセアニア酒類		23	38	-15	-40.5%
	ライオン	70	57	13	22.4%
医薬		70	57	13	22.4%
	協和麒麟	149	164	-15	-9.0%
その他		149	164	-15	-9.0%
	メルシャン	70	57	13	22.4%
	ミャンマー・ブルワリー	4	0	4	—
	コーク・ノースイースト	25	50	-25	-49.6%
	協和発酵バイオ	23	10	13	136.6%
	その他	-4	-14	10	—
全社費用・セグメント間取引消去		21	11	10	93.1%
		-104	-100	-4	—

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 1Q実績：キリンビール

(千KL)	21年1Q実績	20年1Q実績	増減 %
ビール類計	-	-	-1.7%
ビール	-	-	-4.4%
発泡酒	-	-	9.1%
新ジャンル	-	-	-5.3%
RTD	104	82	26.6%
ノンアルコール飲料	10	9	1.6%

*ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

(億円)	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	1,362	1,304	58	4.5%
酒税売上収益	793	771	23	2.9%
事業利益	119	107	11	10.5%

20年1Q 事業利益 (億円)

酒類等
限界利益 増

対前年
増減
(億円)

原材料費 減

販売費 増

その他費用 減

計

21年1Q 事業利益

107 主な内容

ビール類計 -7億 (ビール減 -4千kl、発泡酒増 7千kl、新ジャンル減 -9千kl)

9 ビール類以外計 16億 (RTD増 22千kl、ノンアル増 0千kl)
品種構成差異等 0億

5

-15 販売促進費増 -1億、
広告費増 -14億 (計119億→134億)

12 旅費交通費減 他

11

119

補足

国内酒類市場

- ▶ ビール類は約 -10%。
- ▶ 業務用チャネルは約5割減。
- ▶ 健康志向や低価格志向が継続。

販売数量

- ▶ 主力ブランドに加え新商品が好調に推移し、ビール類・RTDの全てのカテゴリで市場を上回った。
- ▶ ビール類缶は+7%と家庭用チャネルが堅調に推移。

業績補足

- ▶ 発泡酒・RTDの販売数量増加や、販促費の期ずれなどの影響により、限界利益は9億円増加した。
- ▶ 厳しい市場環境の中、長期的な視点でのブランド投資を強化したことで、広告費は14億円増加した。
- ▶ その他費用は、営業活動の制限などによる費用減少等により、12億円減少した。

2021年度 1Q実績：キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		21年1Q 実績	20年1Q 実績	増減 %
カテゴリー別	紅茶	1,131	1,313	-13.9%
	日本茶	632	709	-10.8%
	コーヒ-飲料	544	574	-5.2%
	果実・野菜飲料	485	507	-4.3%
	炭酸飲料	260	299	-12.9%
	健康・スポーツ飲料	234	226	3.5%
	水	793	968	-18.1%
	その他	257	314	-17.9%
容器別	缶	555	622	-10.8%
	大型PET	1,427	1,682	-15.2%
	小型PET	1,983	2,222	-10.8%
	その他	372	383	-2.9%
計		4,337	4,909	-11.7%

（億円）	21年1Q 実績	20年1Q 実績	増減	%
売上収益	515	600	-85	-14.2%
事業利益	23	38	-15	-40.5%

20年1Q 事業利益（億円）

対
前
年
増
減

清涼飲料限界利益 減

原材料費等 減

販売費 減

その他費用 減

計

21年1Q 事業利益

38 主な内容

販売数量減 -573万ケース -27億
商品・容器構成差異等 -16億

0 原料費減 0億、材料費減 1億、加工費増 -1億

19 販売促進費減 15億、広告費減 4億（計73億 → 54億）

9 販売機器費減、人件費減 他

-15

23

補足

清涼飲料市場

▶ 清涼飲料市場は、-6%で推移。

販売数量

- ▶ 基盤ブランドである「午後の紅茶」、「生茶」は、いずれも外出自粛、在宅勤務増加により前年から減少。
- ▶ 健康志向の高まりにより、プラズマ乳酸菌商品の販売数量は前年同期比 + 28%と堅調に推移。

業績補足

- ▶ 売上収益は、販売数量の減少に加え、商品・容器構成差異等の悪化により減少。
- ▶ 販売数量の減少に加え、チャネル構成比の変化に伴う商品・容器構成差異等の悪化が限界利益を押し下げ。
- ▶ 販売促進費、広告費の削減を進めたものの、マイナス影響を補いきれず事業利益は減少。

2021年度 1Q実績：ライオン

円ベース（億円）

	21年1Q 実績	20年1Q 実績	増減	%
売上収益	597	689	-92	-13.4%
事業利益	70	57	13	22.4%

（参考）旧セグメント表記

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益（酒類）	500	411	90	21.8%
売上収益（飲料）	97	279	-182	-65.3%
事業利益（酒類）	80	68	12	17.0%
事業利益（飲料）	9	1	8	—
事業利益（本社）	-19	-12	-7	—

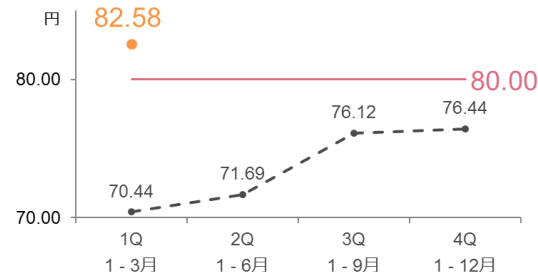
豪ドルベース（百万豪ドル）

	21年1Q 実績	20年1Q 実績	増減	%
売上収益	723	979	-256	-26.1%
事業利益	85	81	4	4.4%

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益（酒類）	606	583	23	3.9%
売上収益（飲料）	117	396	-279	-70.4%
事業利益（酒類）	97	97	-0	-0.2%
事業利益（飲料）	11	1	10	956.6%
事業利益（本社）	-23	-17	-6	—

AUD（オーストラリア・ドル）

*累月平均



※2021年度1Qより、3か月毎の平均レートから累月平均に変更。
前年実績は3か月平均レートで表記。

販売数量増減 *	0.6%
20年1Q 実績	97
豪州・NZ	-13
海外クラフト他**	9
21年1Q 実績	97

三補足

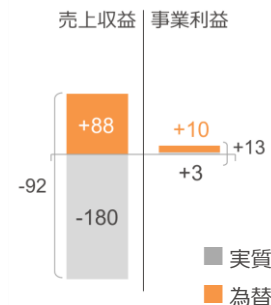
売上収益

- ライオン計の売上収益は、乳飲料事業売却に伴う売上減少（-279m）により大幅減。酒類事業は23mの増収。
- 豪州・NZの売上収益は、昨年3月の家庭用特需の反動や飲食店の収容人数制限により対前年で減少。2Q以降は回復が見込まれる。
- 海外クラフト他は、北米クラフトでの市場を上回る販売により増収。
- 飲料事業は事業売却により1月25日までの業績のみ計上。

事業利益

- ライオン計の事業利益は、飲料事業売却や新型コロナ影響を受けながらも増益。
- 豪州・NZは規制の影響で引き続き影響を受けるも、計画以上のチャネルミックス改善などにより予算を上回り着地。
- 海外クラフト他は、北米クラフトの堅調な販売により事業利益が増加。
- 本社費用の増加は、ERP導入に伴う減価償却費の増加が主な要因。

連結為替影響 21年1Q実績（億円）



* 販売数量増減は豪州・NZ・海外クラフト他の合計。海外クラフト他を除く豪州・NZの販売数量は前年比-5.7%。

** 海外クラフト他には数量増減影響とその他の影響のネット額。

2021年度 1Q実績：協和キリン

(億円)	21年 1Q実績	20年 1Q実績	増減	%
売上収益	810	772	38	4.9%
協和キリン	811	773	38	4.9%
セグメント間取引消去	-2	-1	-0	—
事業利益	149	164	-15	-9.0%
協和キリン	149	164	-15	-9.0%



売上収益

- 国内は、「クリスピータ」や「ハルロビ」等の新製品群、花粉飛散量増加の影響を受けた「パタノール」、堅調に売上収益を伸ばした「ジールスタ」などの増収要因があった一方で、薬価基準引下げの影響、一部製品の共同販売等の終了の影響、ダルベポエチン アルファ注シリンジ「KKF」への競合品の影響などがあり、減収。
- 海外においては、グローバル戦略品の「Poteligeo」が北米で新型コロナ感染症拡大による影響を受けたため、前年同期並みに留まったが、「Crysvita」、「Nourianz」は順調に伸長。また、「Regpara」の、中国での市場拡大により、売上収益が増加。
- 技術収入は「ファセンラ」関連のロイヤルティの増加や抗LIGHT抗体の権利許諾契約一時金を受領したことに伴い増加し、売上収益は全体で増収。

事業利益

- 事業利益は、グローバル戦略品を中心とした海外の売上収益の増加に伴う売上総利益の増加があったものの、グローバル戦略品の価値最大化と競争力あるグローバルビジネス基盤の早期確立に向けた販売費及び一般管理費の増加等により、対前年で減益。

製品別売上収益（億円）

主要製品名 (国内)	21年 1Q 実績	20年 1Q 実績	増減	主要製品名 (海外)	21年 1Q 実績	20年 1Q 実績	増減
ネスブ+AG*	65	74	-10	Crysvita *1	163	120	43
ダーブロック	2	-	2	北米	117	92	25
レグパラ	7	10	-3	EMEA	45	28	18
オルケディア	21	20	1	Poteligeo *2	32	29	2
ジールスタ	66	61	5	Nourianz	10	4	6
リツキシマブBS	26	26	1	Abstral	18	28	-10
アレロック	29	30	-1	Regpara	22	17	5
パタノール	65	59	6	技術収入	49	31	18
ノウアリスト	19	22	-3	ベンラズマブ	38	27	11
技術収入	6	3	3	ロイヤルティ *3			

*正式名はダルベポエチン アルファ注シリンジ

「KKF」

製造販売元：協和キリンフロンティア株式会社

販売元：協和キリン株式会社

各数字は協和キリン 1Q決算資料より抜粋

*1 上市国（2021年3月末現在、南米除く）下線は小児・成人上市国：アメリカ、カナダ、ドイツ、オランダ、ルクセンブルク、イングランド、ウェールズ、北アイルランド、スロバキア、スウェーデン、イスラエル、UAE、チェコ、デンマーク、イタリア、日本、ノルウェー、バーレーン、スコットランド、オマーン、クウェート、カタール、ルーマニア、スロベニア、フランス、フィンランド、エストニア、スペイン

*2 上市国（2021年3月末現在）：日本、アメリカ、ドイツ、オーストリア、ルクセンブルク、イタリア

*3 アストラゼネカ社が販売するファセンラの売上ロイヤルティ（当社独自の見積もりを含む）。

2021年度 1Q実績：ミャンマー・ブルワリー

円ベース (億円)

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	57	107	-50	-46.7%
事業利益	25	50	-25	-49.6%

チャットベース (Billionチャット)

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	75	140	-66	-46.7%
事業利益	33	65	-32	-49.6%

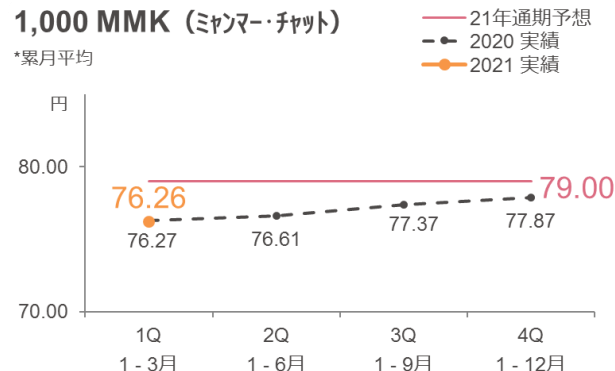


2021年1Q実績

- ビール市場は、新型コロナウイルス感染拡大に加え、ミャンマーにおける政情激変とサプライチェーンの乱れの影響もあり、販売数量が減少した。
ミャンマー・ブルワリーの販売数量も、ビール市場と同様-46%と前年を下回った。
- 売上収益、事業利益とも、販売数量の減少によって減収減益。

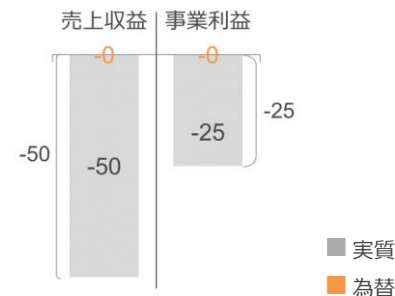
1,000 MMK (ミャンマー・チャット)

*累月平均



連結為替影響

21年1Q実績 (億円)



2021年度 1Q実績：コーク・ノースイースト

円ベース (億円)

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	317	317	-0	-0.1%
事業利益	23	10	13	136.6%

USDベース (million \$)

	21年1Q実績	20年1Q実績	増減	%
売上収益	296	291	5	1.7%
事業利益	21	9	13	140.9%

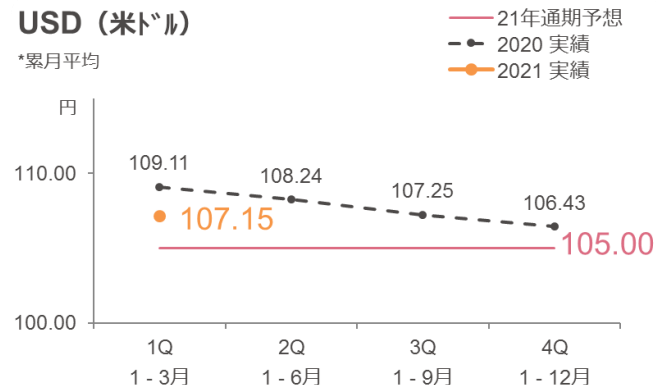


2021年1Q実績

- ▶ 昨年3月下旬に、新型コロナの影響により水などのストック需要が発生した反動で、販売数量は-5%と厳しい状況であったが、業務用チャネル及び家庭用チャネルにおける価格改定効果や、商品ミックスの改善により、USDベースでは増収。円貨ベースでは、為替影響を受け減収。
- ▶ コストコントロールによる業務効率化効果もあり、事業利益は大幅に増加。

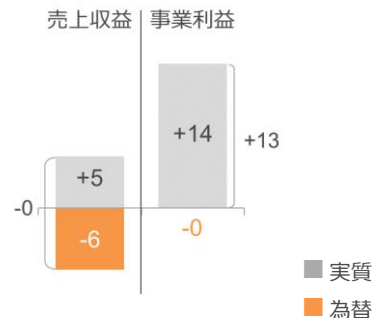
USD (米ドル)

*累月平均



連結為替影響

21年1Q実績 (億円)



この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together